

留学先国名 : ベトナム

留学先学校名 : Vietnam National University Ho Chi Minh city Social Science Humanities

(ベトナム国立大学ホーチミン市社会科学大学)

留学期間 : 平成 28 年 9 月 ~ 平成 29 年 9 月

(留学で失敗したと思うこと)

—言語面—

少なくとも TOEIC 700 点以上の英語力をつけておくこと。基本的な文法を何度も復習して自然に口をついて出るようになるまで繰り返すこと。この 2 つが大切だと思う。私は英語が出来なかったため留学中は常に単位を取れないのではないかという不安がつきまとい、ベトナム人の生徒に英語が出来ないことを笑われたりした。英語はとにかく勉強しておくべきだと思う。

—授業履修面—

私の場合、受けられると思っていた授業が実はベトナム語でしか開講されておらず、いくつかの授業を受けることが出来なかった。また、留学担当職員に「あなたはベトナム語を勉強しに来たんじゃないの？」と聞かれるなど専門分野を勉強しに来た留学生ということさえ認識されていなかった。このような失敗を防ぐために「いつからいつまで、何語で行われる、何という内容の授業を、何単位分受けられるのか」ということをしっかり確認するべきだと思う。

—インターンシップ—

留学終わりに海外インターンシップをしようと思っていた。しかし、いざ会社に連絡を取ってみると「一か月少ししか働けない学生はいらない」「斡旋会社を通していない学生はいらない」と断られインターンシップが出来る会社を探すまでに苦労した。

—就活—

大学 2 年生の夏に留学に行った。当時はまだ就活は先のことだと考えていて TOEIC が就活に必要なこと、就活に筆記試験があることを知らなかった。そのため留学中に「このままだと就活はどうなるのだろう」「就職できるのだろうか」と不安に思う羽目になった。

(留学で失敗した時に挽回する方法)

—言語面—

・英語

1 年間ほぼ毎日バングラデシュ人の友だちと行動を共にした。彼女は英語しか話せなかったため、彼女と過ごしているうちに会話力、リスニング力が向上した。また、英語が得意な現地の友だちを作り英語を教えてもらった。その結果、TOEIC の点数が 500 点から 780 点を超えるくらいに伸びた。

・ベトナム語

現地の人はほぼ英語が話せないためベトナム語を話す必要がある。最初は挨拶も自己紹介も通じず生活が出来なかった。そのため自分で現地の友だちを作り日本語を教える代わりにベトナム語を教えてもらった。その結果、挨拶も自己紹介も通じない状態から8カ月で中級の資格を取れるまでに上達した。

—履修面—

英語が出来なかったため授業に全くついていけなかった。そのため友だちと一緒に勉強したり、先生に質問に行ったり、レポートをきっちり出したりと小さな努力を積み重ねた。その結果、専門科目である Globalization のクラスで最高点である 9.0 点を取ることが出来た。

—インターンシップ—

インターンシップ生を募集している会社が1つもなかったため、とにかくホテル、フリーペーパー制作会社など人を必要としていそうな会社に自ら連絡を取り、履歴書を送った。その結果、2社からインターンシップの内定をもらうことが出来た。

ホテルのインターンシップ先では各店舗の料理人を集め料理コンテストを開いたり、日本人ビジネスマンに向けた記事を作成したりなど積極的に活動した。

—就活—

最初は現地採用でベトナムに就職することを希望していたが、「就労経験がない」「給料形態があまりにも日本と違う」という2つの観点から現地採用を諦めた。その後は母から本を送ってもらい就活の基礎を勉強し、ベトナムで働くとはどういうことかを学ぶために関大サイゴン会に参加しベトナムで働くOBの話の聞いたり、ベトナムで働く平成生まれの日本人が集まる会に参加したりした。インターンシップにも参加し実際にベトナム人のスタッフと働く経験も積んだ。

(将来・帰国後のこと)

—留学を将来にどう活かすか—

私はこの留学を活かし将来ベトナムに殺虫剤を売りたいと考えている。その理由はベトナムに住んでいる時に害虫に悩まされたからだ。熱帯気候のベトナムでは蟻、ゴキブリ、蚊などが多い。数時間机に食べ物を放置すると机を覆いつくすように蟻の大群が発生し、半袖で街を歩けば何十箇所も蚊に刺される。その割には殺虫剤が売られておらず、蚊帳くらいしか虫を防げる物がない。その経験からベトナムで殺虫剤を売りたいと考えるようになった。ベトナム留学で身に付けたベトナム語とベトナムに関しての知識をそのような形で将来に役立てたいと考えている。

—帰国してから留学経験をどう活かしているか—

留学経験を活かす場所がないというのは多くの帰国生が経験する悩みだと思う。正直、帰国してからはどう留学経験を活かすべきか分からなかった。今でもはっきりとした答は見つかっていない。とにかく今は日本に住んでいるベトナム人と会い、また Facebook などの SNS をベトナム語で投稿することによってベトナム人と帰国後も積極的に交流するようにしている。

(留学中・留学後の精神面について)

—ホームシック克服方法—

食べ物が美味しくない時、先輩や友だちが卒業してしまった時に私はホームシックを感じた。食べ物については、ベトナムでは美味しい物が少なく、何も口に出来ずにビスケットとパスタばかり食べていた時があった。スーパーで日本風の食べ物を買って自炊が出来るようになってからは、この手のホームシックを感じなくなった。早めに大型スーパーを見つけ、食べ物を買って、自炊出来るようになることが大切だ。

大好きな先輩の卒業パーティに友だち皆が参加しているのに、私だけ参加できなかった時は何とも言えない寂しさを感じた。自分が仲間外れにされているような気がした。長く留学をしていると日本の友だちに連絡を取るのも気が引けてしまい中々連絡が出来なかった。そんな時は現地の友だちと遊びに行ったり、話したりした。友だちと話したり、日記に自分の思いを書き綴ったり、何か発散方法を見つけて感情も自分の中でため込んでしまわないことが大切だと思う。

—帰国後の方が精神的に辛くなる—

帰国後は燃え尽きてしまわないように注意が必要だ。何でも新しい体験ばかりだった留学中とは違い、帰国してからは単位が認定されるか、就活はどうするか、一年間留学に行っていたため何となく友だちと話が合わない、留学経験を活かす機会がない、外国語を話す機会がない、英語が思っていたより伸びないなど多くの悩みに直面する。国際パーティに参加したり、会社説明会に参加したりと、とにかく将来のために役立つ活動をひたすら続けていくのが良いのではないかと考えている。

(これから留学する人へ)

やる気をアピールして挑戦することが大事だと思う。私は英語もベトナム語も出来ない、就活の準備もしていないという、かなり甘えた状態で留学に行った。留学中は「あなたに単位は取れない」「奨学金を返還して日本に帰れ」と言われ、本当に単位が取れるのか、留年するんじゃないか、就活はどうなるのか、2年生から留学するべきだったのかなど様々な不安や悩みの中で一年間を過ごした。しかし、その中でも「何とかやってみよう」「挑戦してみよう」というやる気をアピールし色々なことに挑戦することで、結果的に留学で最高の結果を収めることが出来た。出来ないことは何一つないと思う。とにかく何にでも挑戦してみることが大切だと、私はこの留学で学んだ。